

社会福祉法人 十字の園

# ぶどうの木

(ヨハネ福音書 15章)

発行: (福) 十字の園法人事務局  
理事長 平井 章

住所: 〒431-1304  
静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11  
tel 053-414-1400  
fax 053-437-1352



浜松十字の園 浜名湖畔でハゼ釣り

## 『私の趣味 ～地域の中で、地域と共に～』 浜松十字の園 施設長 ヤマモト タカヒロ 山本隆弘

19歳の春、当時通っていた教会のボーイスカウトから「小学1～2年生のグループができるから手伝ってほしい」と頼まれ6年間関わってきました。「あなたが、子どもの相手をするなんて信じられない」と母は言い、私も不安に思いましたが、後半の3年間は隊長までやっていました。

それから約20年、ボーイスカウトの行事に偶然遭遇し、かつて一緒に活動した仲間とも再会し、息子も「やりたい」と関心を示したので、地元でまた制服を着て、同じ年代の子どもたちと接することになりました。自然の中で仲間と協力し地域にふれあう経験を重ねながら、地域への関心や愛着が増えていく実感を親子共々味わっています。



## 十字の園の創設から続けられていること 神を賛美し、み言葉を聴くこと、祈ること

理事長 平井 章

### ◎礼拝で一日が始まる

十字の園の創設から続けられていること、それは、礼拝で一日が始まることです。

自分に与えられた技量で物事に対処していても、どうしようもない壁が立ち上がり、先が見えず、神に答えを求めますが、聖書には不可解な応答がよく出てきます。

マルコ福音書の金持ちの譬で、イエスは、「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。」と言い、併行記事の、ルカ福音書では、完璧に掟を守っている議員に対しても同じことを言います。そこで、「それでは、だれが救われるのだろうか」と聞いたときのイエスの答えは、「人間にはできないことも、神にはできる」です。

### ◎福祉とは？

「福」は、神を祀ることによって与えられる「しあわせ」、「祉」は、神から直接、一方的に与えられる「しあわせ」という字からできています。福祉は、「しあわせ」を創ることと言っていいでしょう。

### ◎福祉になくてならないものは？

私は、福祉のキーワードとして、「理念」、「文化」、「地域」、「夢」の4つが必要だと思っています。

### ◇理念とは「愛」そのものです

人間には「愛」はありません、では、愛はどこにあるのでしょうか。聖書には「神は愛である」と書いてあります。神にしか愛はないのです。その神からの愛が人間に届き、それを受け止めることによって、人間は、自分を愛し隣人を愛することができるのです。

### ◇文化とは、人間が作り出すもの

文化とは、衣食住・技術・学問・芸術・道徳・宗教などのことです。文化とは、人間が自然に手を加えて形成してきた成果のことです。ですから、文化を創ることは人

間に任されています。福祉も「文化」です。どんな福祉を創り、展開するのか、福祉文化をどのようにデザインして、新しい福祉文化を創るのか。勿論、「しあわせ」を創ることへの道筋ですが…。



### ◇地域とは、生活をし、生きる場所

私たちは、地域で生まれ、地域で育ち、地域で生きています。いずれのところも私たちの居心地の良い「居場所」です。障がいがあり、要介護になり、支援や介護が必要になっても、できる限りその地域で生活することを願っています。ユニットケアの方法は、施設を含めての地域化だと思います。地域を作ることも人に任されています。

### ◇夢とは、永遠の希望に向います

聖書に「老人は夢を見、若者は幻を見る。」というみ言葉があります。十字の園の理念は「夕暮れになっても光がある」です。

十字の園の祈りによって、「無：制度も法律もない」中から、「有：特別養護老人ホーム」ができました。1958年にハニ姉妹は「世の中の人々が人手や金がかかってやれないというなら、それは神様が教会に命令しているのです。聖隷の職員たちや、私に、進んでやれとおっしゃっているのです。」と行動しました。やればできるのです。やったらできたのです。

### ◎キリスト教福祉の出発のみ言葉

「イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです。」ヨハネの手紙(一)3章16節  
礼拝は、自らの技量に奢ることなく、謙遜になり、神を賛美し、み言葉に聴き、祈って一日の働きをはじめ、職員のための大切な、毎日毎日の出発点です。

## 「最善を尽くす」

十字の園 理事(遠州栄光教会牧師) 野村 稔

浜松に来てもうすぐ10年、この間に多くの教会員が、浜松十字の園で地上の最後の時を迎え、その場に立ち合わせて頂きました。多くの出会いがあり、別れがありました。皆、永遠の命の希望を持って、地上の命を終えて行かれました。見送る側は、寄り添い、神の愛と希望を伝え、神に委ねて祈ることしかできません。自分の力の無さを感じますが、それでよいのだと思います。そして、見送ることになるまでは、自分にできる精一杯のことをするのが、周りにいる者の務めであると思います。



私たちが働く力の源は、神さまの愛です。神さまが、私たちの身代わりとして御子キリストを犠牲にして十字架刑にしてしまうほど、私たちを愛してくださっているのですから、私たちもお応えしたいと思うのです。神さまを愛し、人を愛するのです。そして私たちが働くもう一つの理由は、神さまの手足となるということです。神さまの道具になると言った人もいます。

神さまが自分にしてくださったことにお応えするのであれば、また神さまの道具として用いて頂くのであれば、自分にできる最高のことをしたくなるでしょう。それは時に、この世の仕組みと違うことかもしれません。あるいはこの世の仕組みに無いことをしたくなったり、する必要を感じたりすることもあると思います。そのように、自由に必要なことをする。それが「キリスト教精神」と表現されていることのひとつではないかと思います。それは結果的に、最先端に行く仕事となり、クリエイティブな仕事となるでしょう。

## 「御殿場十字の園グループホーム建設工事が始まりました」

御殿場十字の園 施設長 宮島 克利

9月30日工式で、日本基督教団御殿場教会の中島善子牧師によりお祈りしていただき、御殿場十字の園グループホームの建設工事が始まりました。高齢者のグループホームは、認知症の方が介護職員とともに共同生活をしていきます。一人ひとりが今までの自分の暮らしを抱えたまま生活が続けられるように、また、出来ることや趣味を大切にしたい支援をしていきたいと思っています。そのことから、場所は小中高の学校が近隣にある閑静な住宅街にあります。世代間の交流や散歩、買い物などにも出かけやすい所です。定員は18人で9人のユニットが2つあります。敷地面積は933㎡、建物は木造2階建てで遮音性、耐火性に優れたツーバイフォー工法を採用しました。



この事業は御殿場市の整備事業として行われるもので、補助金が準備経費を含め4080万円付きます。建設業者は入札の結果、1億2337万円(税込)で市内の株式会社オサコー建設で、来年4月の開設を目指し進めていただいています。市内1か所の募集に対し7事業所の応募があり、その中から選定を受けたこともあって期待されるプレッシャーやこれからの運営に関する不安も大きいのですが、基礎が造られ、建物が建てられていく様子を見ながら「夢」も大きく膨らんでいきます。

# 「2013年度 十字の園大会／大会報告」 (伊東地区大会)

十字の園大会の「主題とテーマ」から何が問われているのか？十字の園大会が毎年開かれる理由のひとつには、私達の日々の姿勢への問いかけがあるわけですが、基調講演、課題講演、そして各施設の研究発表から気づかされるが多々ありました。

法人の理念を忘れずに、福祉への姿勢を維持するために必要なこととはなんだろうか？日々の業務に追われている現場職員にとって、十字の園大会の存在は、貴重な学びの場であり、振り返りの機会であると感じました。今年は、基調講演として聖隷三方原病院チャプレン原田先生による「絆」と「愛」をキーワードにした、介護する側、される側の気持ちをたくさん話していただきました。そして「あなたは一人ではない」と伝え続けることの尊さにより、「絆が生まれ」、「平和が実り」、「愛が実る」ことへとつながるのだと教えられました。

課題講演では、『あがらいん』で管理者をされているCLCの橋本先生による制度外の活動と現状を紹介していただきました。出会いと活動の「場」をつくることで、福祉仮設住宅から地域福祉へ「活かす」、「つなげる」、「広げる」、可能性を示してくれました。地域福祉と言う意味では、平井理事長のおっしゃった「地域包括ケアシステムを新しい時代の福祉として十字の園で実施していく」と言う宣言にもつながります。

今大会は、『伊豆高原十字の園』と『平和の杜』が協力して大会準備をしました。また、伊東市高齢者福祉課の職員や近隣の施設職員の参加もありました。これらの協同開催、参加者の多様性は、これからの職員交流へとつながる大きな意味があったと言えます。

以下に講演要約として報告します。

## 基調講演 テーマ「主による絆－自然にかたちづくられた共同体から神に結ばれたまじわりへ－」 聖隷三方原病院 チャプレン 原田 裕子 氏

絆とは、騎綱（き・つな）から転じた言葉で「大切な馬をつなぎとめる綱」の意味です。

絆には色々な絆がありますが、家族の絆は、血のつながりや命の恵みを共に受けて、繁栄し結ばれた絆です。家族内では、人間は存在するだけで良かったのですが、家族の絆から地域社会の絆へ、私的つながりから「村、町」（公的つながり）へ、自然的な絆から「地域」（社会的な絆）へ広がります。社会では、人間は行動し、言論活動を行います。地域では民族・国家間の紛争＝「絆」間の対立が起こってしまうのも事実です。

特定の目的を持つ共同体の絆（人類愛）は、施設での生活やその中で、ケアする人、ケアされる人の絆があります。その中で他職種、同職種でのかかわりを上手く持ち、働けるようにしていき、足りないところを補完され、補完することで形作られる繋がり、絆があります。

人類愛の限界として、ある高校生の言葉が紹介されました。「もしみんなが助かるために、僕たちの誰か1人だけが犠牲になるなら、僕はみんなと助かりたくない。誰か1人が犠牲にならないといけないなら・・・」人を思いやる言葉として、感動的でした。

主にある絆、神によって結ばれた絆（隣人愛）については、愛を表す言葉は複数あるが、アガペー＝相手に自己を与えることによって相手を豊にする絆の話がありました。

宗教を超え、人との絆や仕事場での多職種のチームでかかわることの大切さやその人の歩みに合わせていくことの大切さを学びました。今後も人との絆を大切に、日々の生活を送りたいと思いました。

伊豆高原十字の園 土屋康美



## 課題講演 「被災地石巻から、現在の課題と『あがらいん』の活動」

特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター福祉仮設住宅「あがらいん」管理者 橋本 泰典 氏



東日本大震災から2年半の月日がたちました。現在でも被災地は回復期の途中にあり、次のステップである社会復帰（新たなコミュニティ形成・職場復帰・家庭復帰・地域の再興・心のケアと癒しの恒久的継続）へはまだまだ長い道のりと言えます。

現在「回復途上期」にある、福祉仮設住宅『あがらいん』は、厚生労働省の示す「地域支え合い体制づくり事業」によって運営されております。それは、まさに災害によって故郷を喪失してしまったという、急性期からの回復を願った国策であるわけですが、被災された地域の方々にとって、既存の社会福祉制度だけではケアが足りるものではありません。福祉仮設住宅に住まう人々の中には、住み慣れた地域を大地震・大津波で失った方が多いため、心労からくる身体・精神機能の低下も多くみられており、被災後の二次的な生活問題が浮上しているのです。既存の介護保険制度や障がい者総合支援法、生活保護法の諸制度だけでは、解決できないのです。震災による、地域・住居・家庭・職業の喪失から立ち上がるには、適確な生活継続支援と地域自らの活力の創造と、国民一人ひとりの理解と協力、暖かい思いやりの姿勢が不可欠なのです。

このような背景の中、『あがらいん』の大きな特徴は、諸々の関係機関の協議を基盤としたサービス利用決定を行っている為、具体的な根拠法令が無いことにあります。既存の社会資源や、福祉サービスを組み合わせる事に併せることで、制度外の被災住民の複雑な生活・福祉ニーズに 대응しています。また、自らも地域の拠り所としての、地域食堂、親子サロン、カラオケサロン、園芸作業などの独自の制度外サービスを作り上げることで地域の新たな力を、自ら引き出し、活性化させることにより、一步一步、あたりまえの生活に向けて歩み続けているところなのです。

私達十字の園と被災地の皆様との関わりにおきましても、「縦の絆」と「横の絆」をクロスさせた、『十字の絆』がますます具現化し、日本の復興と発展に寄与できますことを願う次第です。

伊東市立養護老人ホーム平和の杜 生活相談員 梅原聖

### 十字の園大会2013プログラム

#### 大会日程

第1日目 10月24日(木)	
12:30	受付
13:00	開会礼拝
13:20	理事長挨拶
13:30	基調講演
15:00	休憩
15:15	課題講演
16:45	終了
18:00	夕食

第2日目 10月25日(金)	
7:00	朝食
8:30	受付
9:00	施設発表1、2、3、4
10:40	休憩
10:50	施設発表5、6、7
12:05	講評
12:15	閉会礼拝
12:35	閉会の挨拶
12:40	次回案内
12:50	閉会宣言
12:55	解散

#### 施設発表

発表順 / 施設名	発表者
施設発表 1 / アドナイ館	景山博美
家庭的な温かな食事を提供するにはどうしたらよいか ～女性(娘・嫁)の目線で家庭の味に近づけたい	
施設発表 2 / 御殿場	谷田貝泰子 村上洋美
御殿場十字の園「絆の会」の取り組み ～介護者との絆を深め、共に在宅生活をサポート！！	
施設発表 3 / 第2アドナイ館	犬塚直子
絆への足がかり～時間軸を紡いで～ ～生活史を辿る先に見えたこと	
施設発表 4 / 平和の杜	川尻寿
新しい拠り所 ～心と心の支え合い 協力して支え合う	
施設発表 5 / 浜松	山崎淳司
絆～『共に生きる』を考える ～聴覚障害のある利用者の方との関わり	
施設発表 6 / 伊豆高原	在宅部門
『出会い』から『つながる』地域で共に生きるには？ ～「地域包括ケアシステム」実現への第1歩	
施設発表 7 / 松崎	中島梨枝子
変わらない生活を支える ～他職種が同じ思いで利用者さんに接する	

## 【開設から1年が経ちました】

伊東市立養護老人ホーム平和の杜 山田敬紀

2012年の10月に開設された一碧の杜『くつろぎの家』もご利用開始から1年が経ちました。開設当初から指摘されてきた施設内外の備品や送迎車、建物周りの手入れなども、施設職員やご利用者のご協力により徐々に整ってきました。

この1年、ドライブやお散歩を始め、一人ひとりの嗜好にあわせて様々なサービスを提供してきました。時間を忘れて編み物に集中するNさん、お花紙を使った工作に没頭するTさん、長年三味線の先生

であったOさんには三味線教室を開いていただくなど、思いおもいのスタイルで文字通り『くつろぎの家』としてご利用されています。また、ご利用者参加型のおやつ作り、寿司パーティー、お好み焼きなどを企画したり、職員と外食を楽しむなど、食事を中心に入居者の希望に応じています。

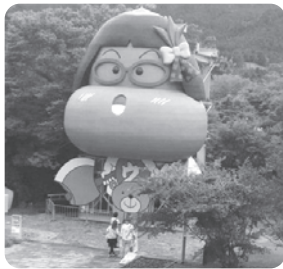
設備の面では、松崎十字の園から大型バンタイプの福祉車両を譲り受け、車椅子ご利用者を移乗することなく乗り降りができるようになりました。職員にとってもご利用者にとっても負担が減り、送迎が容易になりました。

『くつろぎの家』をご利用する事で外出することへの意識が高まり、普段より服装を気にしたり、天気を気にするなどの変化が見られます。少人数でのご利用がアットホームな雰囲気を作り、外への意識が日常活動への意欲へとつながっているのだと実感します。これからもご利用者にとっての『くつろぎの家』であり続けたいと思います。



## 【東名高速道路足柄サービスエリア・『下り』に行ってきました。】

御殿場十字の園 地域活動支援センターくろっちょ 武藤繁生



私たちのドライブ外出は、『くろっちょ』を利用される皆さんが立案し、職員の私達がそれに肉付けして実行しています。

今回、全員一致で「行きたい！」と言ってきたのは、ここ御殿場十字の園から車で10分足らずの、そして今までも何度となく足を向けた事のある東名高速道路足柄下りサービスエリアでした。

今回『下り』と指定されたのには訳があります。今年の夏フジテレビがお台場で開催したイベントが9月14日からここで限定開催されているのですね。

「お台場もフジテレビも遠くて私達には簡単に行くことが出来ないけれど、足柄サービスエリアだったら皆で行って楽しめる。」と高揚感が隠し切れない様子でうれしさいっぱいに教えてくれました。

10月初旬、満を持して出かけてきました。イベントシンボルは、斧を持った金太郎の格好でかわいいクマに跨った巨大モニュメント。それを横目で見て、各飲食店が今回のイベント用に創り出した超巨大なアメリカンドッグやハンバーガー等を頬張ってきました。

このイベントの総支配人はタレント「三ちゃん」こと三中元克さんです。「写真撮りましょうか？」と気さくに声をかけてくださり、大喜びで撮った記念写真は皆、満面の笑顔であったことは言うまでもありません。



## 【ユニットケアフォーラムin伊東】

伊豆高原十字の園 岩本佑太

ユニットケアの伝道師として全国を行脚されている武田和典さんと、静岡県介護指導課長の高橋邦典さんをゲストに迎え、「ユニットケアフォーラムin伊東」を開催しました。

対話形式で勉強会を行い、地域おこし、時代おこしの視点で熱く語ってくださる武田さんの熱意に、力と数多くの示唆をいただきました。ユニットケアを狭く、固定して捉えず、「ケア



を変え、関係を変え、施設を変え、地域社会を

変えていく運動として」捉えなおすとき、未来が見えてくるように思えます。

また、高橋さんは、「お母さんが入れるような希望の施設が無かった」という仕事への思いをお話しして下さい、ユニットケア推進のパートナーとして、心強く感じました。

限られた時間でのフォーラム開催ではありましたが、介護職・看護職をはじめ、相談員や施設長、それに地域の方々など、参加して下さいました方から、それぞれの立場で貴重な感想や意見を沢山いただきました。今後も引き続き、意見交換や実践報告の機会を検討していきたいと思えます。



## 【あじのひらき鍋しき】

松崎十字の園 ワークショップマナ 藤井昭一

ワークショップマナでは、昨年、静岡県授産所製品コンクールにおいて「あじのひらき鍋しき」が県知事賞を頂きました。伊豆の特産品である、鯆のひらきをモチーフにした形が審査員からの評価を受けての受賞でした。受賞してからは取り扱って下さる土産物店も増え今年の夏には多くの観光客の方が買って下さいました。ワークショップマナの利用者が作った鍋しきが、多くの人に使って頂ける機会を得た事は職員にとっても大きな喜びです。

ここで鍋しきの制作工程を紹介させていただきます。材料の杉板を電動カンナにかけ、糸のご盤で鯆のひらきの形に切ります。サンドペーパーで磨



いた後、ガスバーナーで焦げ目をつけ、ブラシで焦げを落とし、ウエスで磨いて完成です。袋詰めも含めて多くの利用者の方が関わって商品として完成します。

鯆のひらき産地日本一は沼津です。いつか、東名沼津インター近くの土産物店で本物の鯆のひらきの隣で販売してもらい、日本中の人にワークショップマナの製品を見て頂きたく毎日頑張っています。伊豆に来られましたら寄って下さいね。



## リハビリ特化型デイサービス始めます!! 第2アドナイ館 施設長 鈴木淳司

7月29日より、第2アドナイ館前のアスファルトを剥がし工事の準備が始まりました。何ができるのかな?と皆様思われていた事と思います。

工事は第2アドナイ館に隣接した建物を増築し、1階をリハビリに特化したデイサービス。2階は法人本部になります。

リハビリ特化型デイサービス『ぷらすワン』  
なぜリハビリテーションに特化したデイサービスなのか?

個人の能力低下の改善や維持(体操、筋力トレーニング)ばかりがリハビリの目的では無いと思っています。その方が地域で暮らし続ける事ができる環境を作って行く事が大切だと思います。その為には、リハビリの専門職が、地域の皆様と近い関係になりたいと思っています。

リハビリに特化したデイサービスを地域の皆様に利用して頂く事で、リハビリの果たす役割を広く知って頂き、又職員も、皆様の生活を知る事で、その専門性を皆様の生活に即した形で提供できると思います。利用者の方がその人らしく暮らせる地域を目指す新たなデイサービスを始めさせていただきます。皆様どうぞよろしくお願い致します。



2013  
平成25年度

## 永年勤続者表彰名簿 (22名)

ありがとうございます。これからも  
元気で良い働きができますように!

勤続年数	氏名	施設名	就職年月日	勤続年数	氏名	施設名	就職年月日
30年	三輪真理子	アドナイ館	1981年2月26日	10年	高橋雅昭	御殿場十字の園	2003年1月1日
20年	北村さち代	浜松十字の園	1992年12月1日	10年	山本 靖	御殿場十字の園	2003年4月1日
20年	伊藤 潔人	浜松十字の園	1993年4月1日	10年	滝口史美	御殿場十字の園	2003年4月1日
20年	三條洋二	松崎十字の園	1992年6月1日	10年	勝俣和也	御殿場十字の園	2003年4月1日
20年	豊田くみ子	法人事務局	1991年8月1日	10年	秋元 徹	松崎十字の園	2002年6月1日
15年	北村仁美	浜松十字の園	1998年4月1日	10年	小磯尚文	松崎十字の園	2002年6月1日
15年	河合美代子	御殿場十字の園	1998年4月1日	10年	佐藤信子	松崎十字の園	2002年4月1日
15年	宮島克利	御殿場十字の園	1998年4月1日	10年	馬場 弘	松崎十字の園	2002年6月1日
15年	天野 蘭香	御殿場十字の園	1998年4月1日	10年	日原輝江	松崎十字の園	2002年7月1日
15年	杉本まゆみ	伊豆高原十字の園	1997年9月1日	10年	宮本節子	松崎十字の園	2002年11月21日
10年	鈴木真琴	浜松十字の園	2003年4月1日	10年	植木三和子	伊豆高原十字の園	2001年4月1日

**あとがき** 浜松市のゆるキャラ「出世大名家康くん」が話題になっています。その名のとおり「出世のまち浜松」がテーマの1つになっています。浜松市の観光や事業の発展だけでなく、福祉のまちとしても成長していきたいものです。個人的には「出世大名家康くん」のうなぎのちょんまげが好きです。うなぎのちょんまげを触ると「出世運」を授かるそうですよ。(永田)

**復興支援募金継続中 ご協力を!!**  
**皆様の温かい御支援をお待ちしております!!**

〒431-1304  
静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11  
**社会福祉法人 十字の園**  
理事長 平井 章

銀行振替 静岡銀行細江支店 普通 0015345

(掲載されています写真については、ご本人またはご家族の承諾を頂いています。)